令和２年度　学校評価結果報告書

田村市立常葉小学校

１　学校評価（児童・保護者・教職員）アンケートの結果の概要

（１）教育目標の「健康」に関して

質問項目１「あなたは、毎日８時間以上の睡眠時間をとることができていますか。」では、児童・保護者・教職員の A・B 回答が８割以上となり概ね良好である。しかし、児童・保護者の A 回答は教職員よりも高く、B 回答はその逆になった。この理由として、①教職員が児童の学校生活での様子から十分な睡眠時間が確保できていないと判断した、②教職員と児童・保護者との情報共有が十分でなかったなどが推測される。学校と家庭で学校生活の様子の共有をし連携をさらに行い、十分な睡眠確保ができるよう個別に対応していく。

質問項目２「あなたは体育の授業や休み時間に、いっしょうけんめい運動に取り組んでいますか。」では、児童・保護者・教職員の A・B 回答が８割以上であり、ほぼ同じ結果であった。今後も、体育の授業を主に「好きな運動」を増やしていく取組を継続していく。

質問項目３「あなたは、毎日、家や学校などで６０分以上の運動をしていますか。」では、児童は A 回答が最も高いが、保護者は B 回答が５割弱と高い。注目したいのは、保護者の D 回答「６０分以上運動をする日はほとんどない」が 15%いることである。学校での運動内容や量を保護者に伝えるとともに、家庭での運動の機会をさらに設定していただくよう呼びかけていく。質問項目４「あなたは、残さないで食事をしていますか。」では、児童・保護者は A 回答が最も高いが、教職員は B 回答が７割強と高い。児童・保護者が家庭での食事の様子から回答したのに対し、教職員が学校での給食の様子から回答した違いであると推測される。給食を通して苦手な物が減ってきたり、好きになったりすることがあるので、保護者に給食のメニューを紹介したり、試食していただく機会を設けたりしていく。

質問項目５「あなたは、自分の歯の健康に関心を持ち、歯みがきをしていますか。」では、児童・保護者・教職員の A・B 回答が８割以上となり概ね良好である。児童・保護者・教職員の順で A 回答が低くなっているが、B 回答は児童・保護者・教職員の順で高くなっている。これは、児童にとってはていねいに歯みがきをしていると思っていても、逆に保護者や教職員は「歯みがきはしているが、雑になることがある」と捉えていることが推測される。歯みがきの習慣化については、ほぼ達成しているので、歯みがきの仕方の質的向上を目指して保健指導を充実させていく。

質問項目６「あなたは、毎月の「ノーメディア・デー」を守っていますか。」では、毎月『ノーメディア・デー』を１回以上は守れていると回答した児童は約８割、教職員は１０割と概ね良好であるが、保護者は６割以下と比べて低い。家庭での様子を最も知る保護者の D 回答が 44.3 %もいることから、学校・家庭がより一体となった取組が必要である。具体的には、児童には児童会委員会から呼び掛けたり、取組のコツの紹介をさせたりする。また、保護者へは健康チェック表の記入を依頼したり、睡眠の大切さについてお便り等を通して啓発したりしていく。

（２）教育目標の「自主」に関して

質問項目７「あなたは、家で勉強をしていますか。（勉強：宿題と自主学習）」では、児童・教職員は A 回答、保護者は B 回答が最も高い。児童・教職員は、自主的に家庭学習をしていると捉えているが、保護者は、人に言われて家庭学習をしていると捉えていることが言える。学校では、「ふくしまの家庭学習スタンダード」を活用して、児童の自己マネジメント力を身に付けられるよう、児童に指導し、保護者に啓発していく。

質問項目８「あなたは、準備をしっかりして授業に参加していますか。（時間割・準備物など）」では、保護者・教職員は A 回答、児童は B 回答が最も高い。保護者・教職員は、学校においてしっかり学習の準備をして授業に臨んでいると捉えているが、児童は、ときどき忘れることがあると捉えていることが言える。学習規律について、学校全体で共通理解のもと教職員で設定したことを徹底指導するとともに、保護者と「学習の手引き」を共有し、家庭において児童が時間割や持ち物などを準備できる習慣をつける。

質問項目９「あなたは、授業でしっかり先生の話を聞いて、質問されたことに対して自分の考えを答えていますか。また、わからないことは質問するようにしていますか。」では、児童は C 回答、教職員は B 回答が最も高い。児童は、授業中の発表や質問はときどきしていると捉えているが、教職員は、発表しているものの、分からないところはそのままになっているなっていると捉えていることが言える。発表や質問は、理解するためにする活動であり､分からないことはそのままにしておかないことを授業の中で指導していく。教師は授業スタンダードを活用して、発表や質問しやすい授業の展開をしていくようにする。

質問項目 10「あなたは、学習でどのようなことをがんばっていますか。（複数回答可）」では、児童・保護者・教職員共にどれにも回答しているが、詳しく見ると、児童は C 回答、保護者・教職員は D 回答が最も高い。児童は、学習で「できないことや分からないことをなくす」ことにがんばっているが、保護者・教職員は、児童は「好きな学習や得意な学習に取り組む」ことにがんばっていると捉えている。質問項目９では、教職員は、児童は「分からないところはそのままにしている」と捉えているが、児童は、「分からないことをなくすためにがんばっている」ことが分かる。児童のがんばりを支え、がんばりが成果となるよう、「学習の手引き」を活用し、指導していく。

質問項目 11「あなたは、日直や係、委員会活動に進んで取り組んでいますか。」では、児童・教職員は A・B 回答が８割以上であり、ほぼ同じ結果であった。自分であるいは友達と一緒に仕事を進んで行っていることが言える。今後も、自分から進んで仕事に取り組めるよう、役割を明確にしたり称賛したしていく。

質問項目 12「あなたが学習以外で、進んで取り組むことができていると感じるものはどのようなことですか。（複数回答可）」では、児童・保護者・教職員共にどれにも回答しているが、詳しく見ると、児童は A 回答、保護者は B 回答、教職員は A 回答と B 回答が同数で最も高い。逆に最も低いのは、児童・保護者は D 回答、教職員は C 回答である。相手を思いやった行動を続けると共に自分のことをこれまで以上にしっかり行うよう声掛けをしていく。

（３）教育目標の「礼儀」に関して

質問項目 13「あなたは誰に対してもあいさつをすることができていますか。」では、児童は A 回答、保護者・教職員は B 回答が最も高い。特に、教職員の B 回答は８割以上を占め、自分からあいさつをするには至っていないことが言える。学校生活において、あいさつを教職員からされれば、返すことはできているが、自分から進んで教職員へすることは十分でないために、「あかるく・いつでも・さきに・つづけて」をモットーに自分から進んであいさつするよう指導を継続するとともに､児童会でも取り上げて呼びかけていく。

質問項目 14「あなたは時と場に応じた言葉づかいをしていますか。」では、児童・保護者・教職員は B 回答が最も高く、次いで A 回答が高い。注目したいのは、保護者の C 回答が B 回答とほぼ同数で３番目に高いことである。14.3%の家庭において正しい言葉づかいがあまりできていないと保護者が見ていることから、授業はじめ学校生活全体を通して表現活動の場を設定して、正しい言葉づかいの指導をし、できていることを保護者へ伝えていくとともに、家庭での言語環境についてお願いしていく。

質問項目 15「あなたは、『ありがとう』や『ごめんなさい』等の言葉を素直に言うことができていますか。」…児童・教職員は A 回答、保護者は B 回答が最も高い。児童が「ありがとう」や「ごめんなさい」等の言葉を素直に言うことができない理由の一つとして、保護者は C 回答「恥ずかしさや照れくささがあってなかなか言えない」を挙げていることが推測される。言葉によって伝えることの大切さについて、国語の授業をはじめ学校生活全体を通して、指導していく。

質問項目 16「あなたは、自分の身だしなみ（服装やかみの毛）に気をつけて生活をしていますか。」では、児童・教職員は A 回答、保護者は B 回答が最も高い。保護者は、児童が自分の身だしなみにもっと気をつけてほしいと思う反面、朝の時間は登校するまでの限られた時間に、自ら整えること、あるいは保護者が十分に手を掛けるには十分でないと感じていることが推測される。自分で自分のことはするという自立に向けた指導を継続するために、起床や就寝など基本的な生活習慣を身に付けさせるよう、家庭学習スタンダードを活用して自己マネジメント力をつけさせていく。

質問項目 17「あなたは、家族や友達に思いやりをもって接することができていますか。」では、児童・教職員は A 回答、保護者は B 回答が最も高い。児童が家族や友達に思いやりをもって接することができない理由の一つとして、保護者は C 回答「自分のことを優先することが多くてできないことが多い」を挙げていることが推測される。自分のことをしっかりすることとともに、相手にも思いやりをもって接することができるように、特別の教科道徳の授業を核にした指導をしていく。

質問項目 18「あなたは、学校やその他の公共施設、物を大切にして生活していますか。」では、児童・教職員は A 回答、保護者は B 回答が最も高い。児童は「公共施設や物を大切に使用するべきだと分かっているが、できないことが多い」と 13.4%の保護者が回答しているので、学校でできていることを保護者に伝えていくとともに家庭での取組についてお願いしていく。

（４）「学校に関する項目」に関して

質問項目 19「あなたは、楽しく登校することができていますか。」では、児童・保護者・教職員は A 回答、次いで B 回答が高く、８割以上の児童が楽しく登校していると回答している。特に、教職員は９割以上が「ほぼ毎日楽しく登校できている」と回答しているのに対し、児童の２割弱が「登校したくないと思う」や「楽しく登校できていない」と回答していることに留意していく必要がある。月一回の生活アンケートを基に、登校の妨げになることを早期に取り除くとともに、分かるできる授業の実施に努めていく。

質問項目 20「あなたは、学校での出来事や友達のことを家族と話しますか。」では、児童は A 回答、保護者は B 回答が最も高い。児童の５割強は「自分から学校での出来事や友達のことを家族に話している」と回答しているが、保護者の５割強は「何かあったときには、自分から話している」と回答していることから、家族団らんの時間の確保や会話の内容にも考慮する必要が考えられる。家庭生活時間の見直しの提案をしたり、授業に関する調べ学習などで家族で話す内容を決めたりして家庭に協力を求めていく。

質問項目 21「あなたは、困ったことや悩みがあるときに誰に相談しますか。（複数回答可）」では、児童・保護者・教職員は A 回答が最も高く、次いで児童・保護者は B 回答、教職員は C 回答が高い。「児童が困ったことや悩みがあるときに相談する」相手として最も多いのが親や家族を挙げているが、２番目に多いのが教職員は「学校の先生」、児童・保護者は「友達」を挙げている。学校では、児童への相談の機会を設けたり、スクールカウンセラーを周知したりするなど、相談しやすい体制作りをしていく。

質問項目 22「あなたは、学校の授業がわかりやすいと思いますか。」では、児童・教職員共に B 回答が最も高い。しかし、児童・教職員の１割強が C・D 回答で「学校の授業があまりわかりやすくすない」「授業の内容がわからない」としていることから、授業スタンダードを活用した、分かるできる授業を目指した授業改善に努めていく。

質問項目 23「あなたは、どのような授業がわかりやすいと思いますか。（複数回答可）」では、児童・保護者・教職員共にどれにも回答しているが、詳しく見ると、児童・保護者・教職員は A 回答、次いで B 回答が高い。A「友達と話し合いながら進めていく授業」と B「ICT を活用した授業」は現職教育の研究視点として授業改善に向けてさらに推進していく。

質問項目 24「あなたは、学校からのお便り（学年・学級だより等）を家族に見せていますか。」では、児童・保護者は A 回答、次いで B 回答が高い。しかし、保護者の C 回答「見せるように言われてから出す」が１割強あることから、毎日、提出する習慣を身につけさせていく。保護者の協力を得ながら、家庭に連絡帳やお便りなどを置く場所を決め、必ず目を通していただくなどの提案をしていく。

質問項目 25「あなたは、授業や学校行事等に保護者や地域の方が参加することをどう思いますか。」では、児童・保護者は A 回答、保護者は C 回答が最も高い。次いで、児童・保護者・教職員共に B 回答が高い。児童・教職員が「どんどん参加してほしい」「できるだけ参加してほしい」と回答する一方で保護者の多くは「無理のない程度で参加してほしい」と回答している。講師や PTA 活動やボランティアなどでの参加を無理のない範囲

で、今後も依頼したり呼び掛けたりしていく。

質問項目 26「あなたは、常葉小中の一貫して活動（授業や行事）することをどう思いますか。」では、児童は A 回答、保護者・教職員は B 回答が最も高い。次いで、児童・保護者は A 回答、教職員は C 回答が高い。全体として児童・保護者・教職員の８割程度は、「小中一貫教育のよさを感じている」ことから、今後も学校全体で課題解決しながら推進していく。

２　自己評価の総括

（１）教育目標の「健康」に関して

本校で指導の重点としている「睡眠」・「運動」・「食事」は、どれも概ね良好な結果であった。今後の課題としては、学校・家庭がより一体となって「ノーメディア・デー」の徹底を図ること、１日６０分以上の運動ができるような取組を継続すること、給食を契機として苦手な食べ物を減らしたり好きな物を増やしたりしていくことが挙げられる。

（２）教育目標の「自主」に関して

授業や家庭学習への取組は、概ね良好な結果であったが、児童が課題解決のために進んで働き掛けたり、自ら家庭学習をしたりすることが十分にできていない。今後は、児童の「できないことや分からないことをなくしたい」という思いを実現すべく、授業において発表や質問しやすい展開を工夫したり、家庭と連携して児童の自己マネジメント力を身に付けさせたりしていく。

（３）教育目標の「礼儀」に関して

「あいさつ」「言葉遣い」「身だしなみ」「思いやりの行動」「物を大切にする行動」は、どれも概ね良好な結果であった。しかし、児童と保護者の感じ方に差が見られる。児童が学校で見せる姿と家庭で見せる姿が違うことも予想されるので、今後は積極的に学校でできていることを家庭へ伝えていくとともに家庭での取組をお願いしていく。

（４）「学校に関する項目」に関して

児童が楽しく登校できるように「わかる・できる授業」のための授業改善、悩みや困り感があるときに相談できる体制作りが課題であると捉え、教育活動を行ってきたことで、概ね良好な結果となった。今後も「学び合いのある授業」「ICT を活用した授業」を視点とした授業改善と、チーム学校としての相談体制を築いていく。

また、無理のない範囲で、保護者や地域の方々が授業や学校行事へ参加していただくよう協力を呼び掛けていく。小中一貫教育については、そのよさを発信しながら、学校全体で課題解決しながら推進していく。

３　学校運営協議会委員による学校関係者評価

（１）教育目標の「健康」に関して

・ノーメディア・デーに関しては、児童や家庭に対し、なぜやっているのかという意識づ

けや啓発の機会を設けたり、児童一人ひとりの家庭環境等の違いに鑑み、今後は児童自身が日常的に達成可能な目標を定めショートスパンで振り返り、また、次の目標を設定して取り組むといったことなど、手だての検討をしたりすることも必要ではないかと考えられる。
・運動に関しては、新しい生活様式に伴った運動方法を検討したり、運動を目的化せずに、運動による健康な体づくり心づくりの観点からの指導を工夫したりしていのはどうか。
・食事に関しては、学校からの改善提案である「保護者に給食メニューを紹介したり、試食していただく機会を設ける」ことは、学校と家庭が連携して食育にあたる観点からも興味深い取り組みになると思われる。

（２）教育目標の「自主」に関して

・授業改善に関しては、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の推進と合わせ、日常の授業を通じて「質問する」習慣を身に付けさせることも必要ではないか。小中一貫教育のよさを生かし、児童が「自分の考えを発表したり、分からないところを質問したりする」ことの達成基準を設定したり、地域ボランティアを“環境”としてとらえ、講師や支援者をあえて活用する授業を多く企画したりしてみてはどうか。
・発達の偏りから困っている（自分では気づかないながら）児童に対しては、児童自身が困り感を軽減するための手だてをもつための支援が大切なのではないかと思う。
・自己マネジメント力に関しては、学校と家庭が協働して、意義や役割分担の共通理解が図れれば、さらによいのではないかと思う。

（３）教育目標の「礼儀」に関して

・あいさつに関しては、小学校段階では、焦らずにその意味や人間関係構築力をじっくりと理解させていくことができれば良いと思う。手立てとして家庭と学校の協働、幼少中の連携により、あらゆる場面でボランティアを活用する等、地域も巻き込み、心を育てるのもよいのではないだろうか。
・言葉遣いに関しては、小学校段階で「正しい言葉」をそれほど意識する必要はないのではと思う。「正しい言葉」ではなく、感情的な言葉に気をつけさせたいと思う。感情を言語化できないことが、言動の粗野に結びついている側面があると思われるので、国語教育の充実も含めて捉える必要があると思う。児童たちの語彙力を拡充する取り組みを工夫することが大切と愚行する。

（４）「学校に関する項目」に関して

・学校と家庭が協働で「学校が楽しくない」と感じている児童への対応をしたり、家での相談しやすい環境作りのために、学校が家庭を応援していくことが求められる。
・授業改善については、各教員が児童の反応等を踏まえて「わかる授業」の構築に努めて行ってくれることを期待する。また、「友達との話し合いのある授業」を楽しいと感じる児童生徒が多いことは、学年・学級の中の人間関係が良好であることもうかがえることであり、大変好ましい。今後はより質の高い児童生徒同士の学び合いを目指していくことが

望まれる。
・家庭へ確実に連絡しなければならない連絡事項等は学校からの一斉メールなどのデジタル的な手法の導入も検討する必要があると考える。
・小中一貫教育に関しては、児童生徒・保護者・教職員いずれにおいても肯定的な受け止めが多いので、今後も継続的によさを発信しながら質の高い取り組みが望まれる。

４　今年度の学校経営のまとめと次年度への改善点

今年度、常葉中学校との小中一貫教育推進が２年目となり、教育目標を小中同様の「健康　自主　礼儀」と定め、発達段階に応じた教育を段階的に進めてきた。児童・保護者・教職員への学校評価アンケートを分析し自己評価を行い、学校関係者評価を実施したことにより課題を明確にすることができた。

次年度の教育活動で、課題の解決に向けた取組を進めていく。例えば、ノーメディア・デーの徹底については、日常的に達成可能な目標を段階的に定め、児童が自己評価して意欲的に取り組めるようにしていく。このことを学校と家庭で共通理解のもと進めていく。授業改善に関しては、日常の授業を通じて「質問する力」を身に付けさせるために、国語科の「話すこと・聞くこと」の学習単元の中での言語活動を通して指導していく。あいさつの励行に関しては、特別の教科　道徳の内容項目「礼儀」で取り上げ、その意味や人間関係構築力をじっくりと理解させていく。言葉遣いに関しては、感情を言語化できないことが、言動の粗野に結びついている可能性から国語科の指導で児童の語彙力を拡充するとともに学級活動の話し合い活動を通して指導していく。これらを小中で一貫した実践項目・具体的指導事項として指導していく。

また、アンケート項目や選択肢の精度を上げたり、集計結果のグラフを読み手にとって比較しやすいものにしたりしていく。